

もり やま じょう せき
森山城跡

現地説明会資料

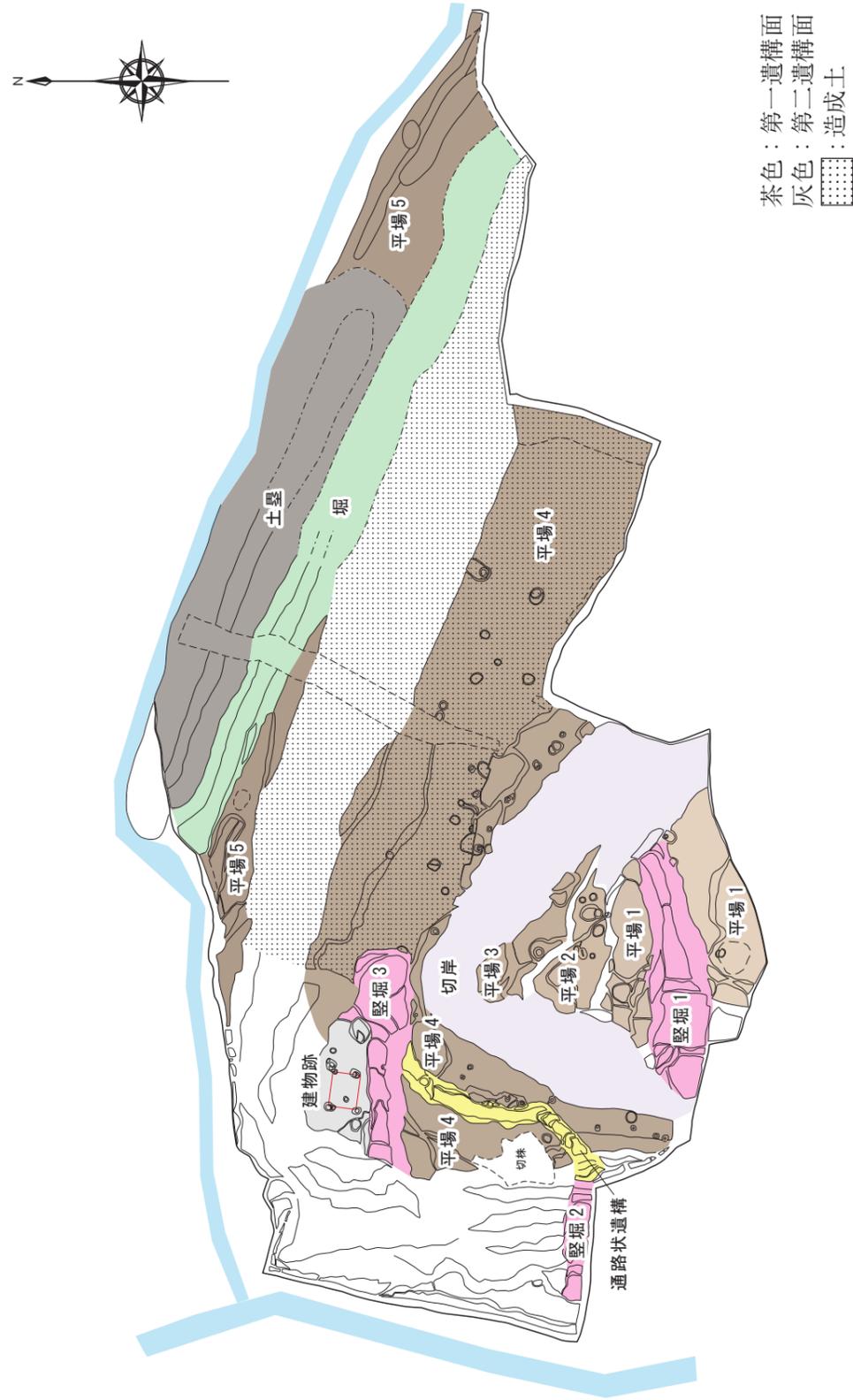


図1 森山城跡遺構位置図(S=1/300)

日時 令和2年11月1日(日) 午前10時~11時
午後2時~3時
場所 高知市春野町森山

公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター

1. 調査の目的

森山城跡は県道甲殿弘岡上線内に位置する中世の山城で、道路建設に伴い影響を受ける部分について、記録保存を図るため事前に発掘調査を行っています。

2. 遺跡の概要

森山城跡は以前より中世の山城として知られていましたが、発掘調査を行うのは今回が初めてとなります。春野町には多くの山城があり、吉良城跡(弘岡)や芳原城跡(芳原)、木塚城跡(西分)等の城跡では発掘調査が行われています。また、森山城跡の南東約500mには森山南城跡がみられ、今後、森山城跡との関係を検討していく必要があります。さらに、森山南城跡の麓には古代の遺跡である二ノ堀遺跡があり、山城として利用される以前から土地の利用があったことが窺われます。

3. 調査成果

(1) 防御施設などの遺構を確認

堅堀3条、通路状遺構、切岸、土塁など山城の防御施設を確認しました。西面には堅堀3条と切岸が確認されており、西面を強固に守っていたとみられます。堅堀2と堅堀3の間には岩盤を削り抜いて作られた幅約50cmの通路状遺構が検出されたほか、最下段では土を盛って作った土塁とその内側には堀も確認されました。

(2) 長期にわたる山城の利用

山城として使用された時期は、今後の詳細な出土遺物の検討を待たなければなりません。14世紀には使用されていた可能性があります。遺構面は15世紀代と16世紀前半の少なくとも2時期あることもわかりました。

(3) 大掛かりな造成

15世紀代の遺構面は岩盤を削り平地や切岸を造り出していました。16世紀前半の遺構面は幅6m、高さ5.5mの範囲に土を盛り、大掛かりな造成を行い、広い曲輪を造り出していました。この様な大掛かりな造成を行っている山城は県内では確認されていません。

(4) 中世以前の利用

出土遺物には12～13世紀にかけての遺物も含まれており、山城として使用される以前にも森山城跡のある丘陵が利用されていたことがわかりました。丘陵の南東に位置する二ノ堀遺跡と同様の時期であり、丘陵上をどのような目的で使用していたのか検討していく必要があります。

4. 出土遺物 (コンテナケース約30箱)

(1) 弥生時代 弥生土器(壺)

(2) 古代 土師質土器(杯・椀・小皿)、土師器(甕)、白磁(碗)、青磁(皿)など

(3) 中世 土師質土器(杯)、土師器(甕・釜)、瓦器(椀・小皿)、東播系須恵器(こね鉢)、瓦質土器(鍋・釜)、青磁(碗・稜花皿・盤など)、白磁(碗・皿・香炉か)、青花(碗・皿)、陶器(甕・壺・皿)、土製品(土錘)、金属製品(釘・切羽・古銭)など

(4) 近世 陶磁器(碗・皿など)、瓦質土器(火入)、金属製品(古銭)など

5. まとめ

山城の使用時期や構造など特徴のある山城であることがわかりました。古い山城として知られる南北朝期の木塚城跡や16世紀中頃の芳原城跡と同時期に存在していた山城である可能性があり、

戦国時代の春野町を考える上で非常に貴重な成果を得ることができました。また、令和3年度には森山城跡北側の堀とみられる箇所調査を行う予定です。城跡の付属施設である堀がどのような形で繋がっていたのか、今後の調査が期待されます。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり地域の方々や関係者の皆様には、ご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。



写真1 堅堀1・切岸完掘状態(西上空より)



写真2 平場1～3完掘状態(北上空より)



写真3 通路状遺構検出状態(北より)



写真4 掘立柱建物跡検出状態(南東より)



写真5 土塁検出状態(南西より)